

IUHW



特集
1

第11回 国際医療福祉大学学会学術大会

特集
2

オリンピック・パラリンピック ボランティア体験記



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

第11回 国際医療福祉大学学会学術大会 コロナ禍を乗り越えて



第11回国際医療福祉大学学会学術大会(大会長:長沢光章国際医療福祉大学成田保健医療学部長)が11月14日、成田キャンパス特大講義室で開催された。成田開催は成田キャンパス開設から6年目で初めて。

昨年の大会は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、オンライン形式で行われたが、今回はワクチン接種が進み、感染が落ち着いてきたことから、会員がメイン会場に一堂に会して行われる通常の形に、一部オンライン・テレビ会議システム「Zoom」を用いた「ハイブリッド形式」で行われた。オンラインでは約200人、対面では約100人が参加した。

今回のメインテーマは「新しい時代の医療・福祉を担うために」。大友邦学会長は大会の意義について「他領域との情報共有を踏まえて新しいものを作っていくこと」と語り、11回目となった学術大会が「今後どのように効率的に進められるか検討してほしい」と強調した。また長沢大会長は「当初は8月に2日間の日程で開催し、できれば成田病院を見てほしかったが、(新型コロナウイルスの感染拡大に伴い)1日だけの開催となった」と延期となった背景に理解を求めた。



●開会式であいさつする大友学会長 ●開会式であいさつする長沢大会長

今回の大会には、一般演題は268演題のエントリーがあり、特に優れた優秀演題8本が当日プログラムで口述発表されたほか、教育講演、特別講演、シンポジウムなどが行われた。開会式直後に行われた優秀演題の口述発表では、各テーマにさまざまな分野の会員から活発な質問が寄せられ、他領域への関心の高さがうかがわれた。

科学の力で克服

特別講演は「COVID-19 免疫学のトピックス」と題して、河上裕医学部長が、免疫学の立場から、人間の持つ免疫機構に影響を及ぼす新型コロナウイルスについて、現在のmRNAワクチンが特に唾液



●特別講演の河上裕医学部長

や母乳に効果的に作用しており、有効である特性があること、また、経口の抗ウイルス薬ができれば、大きなゲームチェンジャーになるとの見通しを説明、「科学の力でこの新

型コロナウイルスも克服できる」と強調した。

一方、教育講演では、新型コロナウイルスと関わり第一線で活躍する津島健司成田病院副院長が「COVID-19 診療・治療の最前線」と題して、コロナ禍との成田病院での取り組みを、第1波から第5波まで、ウイルスの種類、薬剤や人工呼吸器、陰圧室の必要性など患者の重症度に応じてどのような治療を行ったか詳しく説明した。そして、ワクチンの普及がカギとしつつ、日本では死亡率が季節性インフルエンザを下回っているが、「海外ではそれでも死亡率がなお高い現状もあり、慎重な見極めが必要だ」と締めくくった。

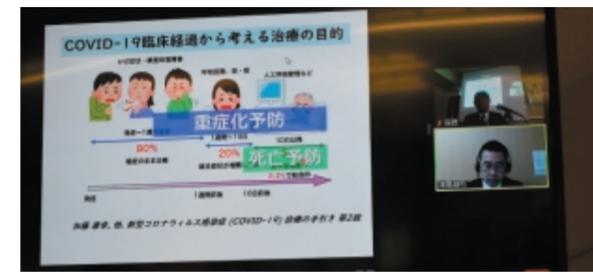


●優秀発表者表彰式

また、和田耕治医学部公衆衛生学教授が「新型コロナウイルスの今後のあり得る見通しと必要な対応～この冬と今後の第6波を見据えて」、辻省次ゲノム医学研究所長が「ゲノム医療の最前線」、潮見隆之副医学部長が「遠隔診療～病院間連携～国際医療福祉大学成田病院病理診断科・国際遠隔診断センターの取り組み」とそれぞれ題して、コロナ禍を乗り越えたその先の医療・福祉に今回の経験をどのように生かしていくかを説明した。

シンポジウムは「新しい時代の教育・臨床実習スタイル」と題し、上田克彦成田保健医療学部放射線・情報科学科長、西田裕介同理学療法学科長、宮嶋宏行国際医療福祉大学臨床工学特別専攻科教授、田村雄一医学教育統括センター教授がコロナ禍で実践したバーチャル・リアリティを使った教育、ICT(情報通信技術)を活用した臨床実習、今後医学分野でAI(人工知能)とどのように付き合うか、など将来の教育方法への示唆の富んだ話が行われた。

また、今回初の試みとして各キャンパス横断やグループ病院連携として枠を乗り越えた各学科企画による11分野の分科会を実施した。なお、本学術大会の全ての演題および一般演題ポスター発表は、特別Webサイトで期間限定の閲覧形式とした。



●オンラインで教育講演を行う津島成田病院副院長



●看護学科の分科会「コロナ禍における看護学科教員による支援」

【学術大会プログラム内容】

- 優秀演題口述発表 I**
 座長:医学部副医学部長・医学科長 吉田 素文
 ●「消化器がん患者の術後合併症発症予防に向けた要因分析—多施設共同研究—」
 保健医療学部理学療法学科 原 毅
 ●「対数振幅スペクトルを用いて単純X線撮影の不鋭を復元する方法の研究」
 大学院医療福祉学研究所保健医療学専攻放射線・情報科学分野 西木 雅行
 ●「STAP-1アダプター蛋白のCML発症・病態への関与」
 成田病院血液内科 織谷 健司
 ●「新型コロナウイルスにおける低線量条件下のCTの人工知能を用いた画質改善の検討」
 成田病院放射線科 桐生 茂
- 優秀演題口述発表 II**
 座長:副大学院長・未来研究支援センター長 山崎 力
 ●「運動時の脳活動領域に視覚指標位置が与える影響」
 福岡保健医療学部医学検査学科 文室 知之
 ●「幼児の構音発達を阻害する要因—構音器官随意運動機能と構音発達の関係」
 保健医療学部言語聴覚学科 前新 直志
 ●「eEF1Bδ欠損によるてんかん発作の発症メカニズム解明とその治療薬の探索」
 福岡薬学部薬学科 貝塚 拓
 ●「アルツハイマー病脳由来血清エキソソームのマイクロRNAマーカーの確立」
 福岡薬学部薬学科 今村 友裕
- 特別講演**
 「COVID-19 免疫学のトピックス」
 演者:医学部長 河上 裕
 座長:学長 大友 邦
- 教育講演 I**
 「COVID-19診療・治療の最前線」
 演者:成田病院副院長 津島 健司
 座長:副学長 鈴木 康裕
- 教育講演 II**
 「新型コロナウイルスの今後のあり得る見通しと必要な対応」
 演者:医学部公衆衛生学教授 和田 耕治
 座長:副学長 鈴木 康裕
- 教育講演 III**
 「ゲノム医療の最前線」
 演者:ゲノム医学研究所長 辻 省次
 座長:副学長、成田病院長 宮崎 勝

- 教育講演 IV**
 「遠隔診療～病院間連携～国際医療福祉大学成田病院病理診断科・国際遠隔病理診断センターの取り組み」
 演者:医学部副医学部長 潮見 隆之
 座長:副学長、成田病院長 宮崎 勝
- シンポジウムメインテーマ**
 「新しい時代の教育・臨床実習スタイル」
 「実現しているVirtual Realityを用いた医療職教育」
 演者:成田保健医療学部放射線・情報科学科長 上田 克彦
 「ICTを活用した臨床実習教育の可能性」
 演者:成田保健医療学部理学療法学科長 西田 裕介
 「社会・教育のデジタル化と教育データの利用」
 演者:臨床工学特別専攻科教授 宮嶋 宏行
 「今後医用AIとうまく付き合っていくために」
 演者:医学部循環器内科/医学教育統括センター教授 田村 雄一
 司会:副学長・大学院長 三浦 総一郎
 成田保健医療学部理学療法学科長 西田 裕介
- 優秀演題表彰者**
- 学会長賞**
 福岡薬学部薬学科 今村 友裕
- 学術大会長賞**
 成田病院放射線科 桐生 茂
- 優秀賞(口演)**
 福岡薬学部薬学科 貝塚 拓
 成田病院血液内科 織谷 健司
 保健医療学部言語聴覚学科 前新 直志
 大学院医療福祉学研究所保健医療学専攻放射線・情報科学分野 西木 雅行
 福岡保健医療学部医学検査学科 文室 知之
 保健医療学部理学療法学科 原 毅
- 優秀賞(ポスター)**
 福岡保健医療学部作業療法学科 松下 航
 成田病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 岡 愛子
 副大学院長・未来研究支援センター 山崎 力
 保健医療学部視機能療法学科 鎌田 泰彰
 大学院医療福祉学研究所保健医療学専攻助産学分野 鈴木 由美
 保健医療学部看護学科 稲葉 史子
 医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科 山口 佳子
 小田原保健医療学部理学療法学科 藤齋 孝義

ボランティアで得た教訓

1964年以来、57年ぶりに開催された東京オリンピック・パラリンピック大会。コロナ禍で開催が不透明だったが、本学からこの機会にボランティアとして参加した学生たちに、ボランティア活動を通して感じたこと、その意義を寄稿してもらった。

留学生の開会式サポートスタッフ@国立競技場 日本の「おもてなし」の心で歓迎

成田キャンパス Nguyen Van Tai (グエン・ヴァン・タイ)
医学部5年 (ベトナム出身)

オリンピックを初めて見たのは2008年、小学生の時の北京オリンピックだった。これまでに見たことがない大規模なイベントに圧倒され、とても感動した。いつか生で見てその場の雰囲気を感じたいと長い間願っていた。東京でオリンピックが開催され、この二度とない機会を絶対に逃さない気持ちでボランティアに応募した。

大会では、開会式と閉会式で各国からの選手団が入場するとき、道を作り、選手たちを誘導し、日本の「おもてなし」の心で歓迎した。途中で、皆で簡単なダンスをすることもあった。

コロナ禍でのこのような大規模なイベントの開催は批判もあり、この状況で何が一番良いのかは自分にはわからないが、当事者としてオリンピックに参加して、大会を無事に開催させることがどれだけ大変だったかがよくわかった。

大会が無事開催できたのは、組織委員会をはじめ、スタッフ、医療従事者、ボランティアの方々、本当にたくさんの人が尽力したからこそだ。オリンピックにかかわる一人ひとりの大会への思いは熱く、素晴らしい大会となるよう願いを込めて一生懸命活動していた姿を見て、私も元気をもらった。

この困難な状況において、開会式で同じ目的を持つ世界各地から来たアスリートたちが一つ屋根の下に集まるといふ歴史的瞬間に立ち会って、「これが私たちの希求する団結と平和そのものであり、また自分が望む国際活動の理想の姿だ」と感じた。

「外国にいることを忘れた」

特にジョン・レノンの名曲「イマジネーション」が会場にながれたとき、その場の205か国・地域からの人々が一つになったようで、本大会がきっと日本、そして世界の人々に希望を与え、この困難な状況から立ち上がる力になると信じている。

ボランティアを通して多くの出会いがあった。自分とは全く違うバックグラウンド、職業、生活の人々が「オリンピックへの思い」という共通点で集まり、素晴らしい大会を作り上げるために一緒に活動してきた。それらの経験はまた



●東京オリンピック開会式の開催された国立競技場前

とない貴重な経験だった。

セレモニーのリハーサルの時に、他のボランティアの方が「ベトナム選手団が入場するときは無理にでもタイクンを前に押し上げる」と言ってくれた。自分が今、外国にいることを忘れ、とても温かい気持ちになった。この経験は一生記憶に残ると思う。

誘導と案内@仙台駅 イタリア選手団に折り鶴

大田原キャンパス 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科1年 荒 泰樹

オリンピックが日本で開かれるのは、なかなかない機会であり、もしかしたら二度と参加できないかもしれない。一日でもいいから参加することで貴重な経験になると考えて、ボランティアに参加した。



●仙台駅構内で作成した折り鶴を前に

活動は8月3日、仙台駅構内での誘導と案内を担当した。自分のブースでは、観光案内とイタリアの選手団への折り鶴の作成を行った。もっぱら折り鶴の作成に携わっていた。

折り鶴を作るのは小学生以来であり、作り方を覚えていなかった。しかし、ほかのボランティアや、立ち寄ってくれた方々などに教わりながら、最終的には自分で折れるようになったのがうれしかった。

このような感じで助け合いの輪が広がっていけば良いなと感じた。

メディカルスタッフ@国際放送センター/メインプレスセンター 国際的医師をめざす大きな糧に

成田キャンパス 医学部4年 佐藤 聡美

東京オリンピックが開催されると知ったのは中学3年生の頃だった。テレビで見る大きな大会が地元に来ると知って、待ちきれない気持ちになったのを覚えている。開催時にはボランティアとして大会に参加したいとずっと思っていた。

大学入学後、外国人医療について学ぶ学生団体に参加した。活動の一環として医療英語に関する勉強会やイベントを多数開いてきたが、それらへの参加を通じて海外からの患者さんに接する練習ができたと思う。

団体として東京オリンピックでボランティア活動を行うことをめざしていたが、新型コロナウイルス感染症の流行で大会の開催が延期となり、一時は大会に参加できるかわ

からなかった。参加が決まった時は長年の目標がかなうとわかり、とてもうれしかった。

オリンピックでは国際放送センター/メインプレスセンターでメディカルスタッフとして活動し、各国の選手や報道陣のための医務室で受付と医療通訳を行った。



●佐藤聡美さん

多言語対応の必要性痛感

普段から学んできた医学の知識、英語や医療面接のスキルを症状の聞き取りや服薬の説明といった場面で生かすことができ、学習を重ねた甲斐があったと感じた。また、異国の地で病気やけがを患った患者さんが安心していただけるようなコミュニケーションを心がけたが、患者さんが診療後「医務室に来たことで安心してよかったです、ありがとうございます」などとお礼を言ってくれ、大変嬉しかった。

一方で英語が通じない患者さんも多く、外国人医療を英語だけで行うのでは不十分であり、多言語対応や非言語的コミュニケーションも必要であることがわかった。これは、国際的に活躍できる医師をめざす上で大きな発見の一つだった。

活動中には多くの人とのお会いもあった。全国からボランティアで集まった医師や看護師、医療事務の方などと知り合うことができ、活動の間には日常の業務についてのお話をうかがったり、一緒にオリンピックのテレビ中継を見たりした。

医療職の方々から自らの仕事で忙しい中でもオリンピック・パラリンピックの開催に協力されている姿に感銘を受け、医師になった後もボランティア活動など社会貢献を続けようと思った。

今回のボランティア活動は、私にとって今後医療を学び医者をめざしていく上で大きな糧となった。得られた学びを生かしていくとともに、今後も積極的にボランティア活動にかかわっていききたい。

出入国のサポート業務@成田空港 「全員が考えて行動することで生まれる 一体感の大きさを感じた」

東京赤坂キャンパス 赤坂心理・医療福祉
マネジメント学部医療マネジメント学科4年 長 あおい

7月から東京オリンピックの大会ボランティアとして、成田空港で選手や関係者の出入国のサポート業務を行った。私がボランティアに応募した理由は、国際的な大きな大会に携われる機会に興味を持ち、運営業務にかかわることで微力ながら大会開催の支えになりたいと感じたからだ。

具体的に行った活動は、ウェルカムボードを作り選手をお迎えし、バスへ誘導。また帰国される時にはバスから出国カウンターへの案内をし、トラブル対応などを行った。

各国の選手と積極的にコミュニケーションを取ることで、入国時に見せた緊張した表情とは違ったフレンドリーな一面も会話の中で垣間見ることができた。

ボランティア参加メンバー全員が大会を成功させたいという思いを持ち、仕事や、年齢など、さまざまな経歴を持

つ人たちが、一丸となって力を合わせることでスムーズに活動できるだけでなく、どうすればより良いお迎えができるのかを、考えて行動することで一体感の大きさを感じることができた。これが今回のボランティア活動経験の中で最も印象に残っている。

同じ目的を持った人が集まり、物事に取り組むなかで、効率的に活動ができた経験と国際的な感覚や体験を生かし、国籍を問わず多くの方とかわる意識を持ち、今後の自身の成長につなげていきたい。



●成田空港でウェルカムボードを掲げる長さん(写真中央)

ファースト・レスポnder@有明テニスの森 「将来を考える一助になった」

東京赤坂キャンパス 赤坂心理・医療福祉
マネジメント学部心理学科4年 豊田 瑞枝

大学でボランティア論の授業を取っていてボランティアについて興味を持ったころ、たまたま開催されていたオリンピックボランティアの説明会に出席し、「自分も参加してみたい」と思った。オリンピックは世界の一大イベントでもあり、そこに少しでも携わってみたい、というのも参加した理由だ。

有明テニスの森で傷病者への初期対応をするファースト・レスポnderとして、8月29日、31日、9月4日の3日間、活動した。大会が始まる前の会場別研修では実際に傷病者への初期対応の動画を見て、自分達でも実際に担架やAEDを用いて初期対応の訓練を行った。

当日は2、3人で1組となり、AEDと医療用バッグを持ちながら会場内を回った。ファースト・レスポnderは医療に関係する人が多く、精神科に勤めていた看護師の方や救急救命士をめざす大学生から話を聞いた。特に最終日には臨床心理士の方と話すことができ、自分の将来について考える一助となり、とても有意義だった。

また、会場別研修や大会当日に試合会場を見る機会があり、世界的なイベントとしての一端を垣間見ることができた。

会場ではダイニングがあり、そこでご飯を食べることができた。ご飯の種類も多く、味もおいしかった。ボランティアの合間に男子車椅子テニスの決勝を上から観ることができ、国枝慎吾選手の涙に感動した。



●ボランティアの仲間と有明テニスの森で(右端)

約9万人にワクチン接種

PCR検査能力 最大5000人/日

国際医療福祉大学・高邦会グループは2021年も、新型コロナウイルス感染症の対策へ積極的に取り組んだ。

ワクチン接種は3月から医療従事者向けに開始し、その後、順次、一般向けの高齢者接種や集団接種、職域接種に対象を拡大。本学グループの累計接種回数は、9月末時点で179,331回(本グループの学生・教職員54,716回、地域住民をはじめとするグループ外124,615回)に達し、合計で約9万人に接種を行った。

学生の2回目ワクチン接種率は92.6%

5月からグループの各施設でワクチンの集団接種を開始し、会場の提供、医師・看護師の派遣など、さまざまな形で協力。東京ドームで実施された文京、新宿、港の各区住民を対象としたワクチン接種事業にも連日、医師と看護師を派遣した。福岡県では高邦会の高木病院、福岡山王病院、福岡中央病院、柳川リハビリテーション病院、みずま高邦会病院で、医療従事者向け接種、個別接種など計33,719回の接種を行った。

7月に始まった職域接種では、国際医療福祉大学(大田原、成田、東京赤坂、大川の各キャンパス)、福岡国際医療福祉大学、国際医療福祉大学病院の計6か所で、本学の学生・教職員やその家族、近隣地域の学生を含む学校関係者らを対象に、計59,025回の接種を行った。

職域接種への取り組みによって、本学学生の1回目接種率は94.5%、2回目接種率も92.6%(9月末時点)と高い水準に達し、本学での授業は感染対策に万全を期しながら、対面授業を基本に行ってきた。

コロナ病床 ピーク時に252床

PCR検査体制は、グループの病院合計で1日あたり最大約5000件の処理能力を整え、大量に検体が発生した場合でも対応できる充実した検査能力を確保した。大学では学生に安全な学修環境を提供するため感染防止対策を強化。成田キャンパスでは今年度の新入生562人全員に対し入学式前日にPCR検査を実施し、全員の陰性を確認のうえ入学式を実施した。グループ病院施設における臨床実習前にPCR検査が必要な場合も、学生の自己負担なしで実施している。

グループ内の病院で用意したコロナ病床数は、ピーク時で合計252床にもものほり、各地で多くの新型コロナウイルス患者の入院を受け入れた。



●東京赤坂キャンパスで行われた職域接種

新型コロナウイルス 8月、デルタ変異株95%超に

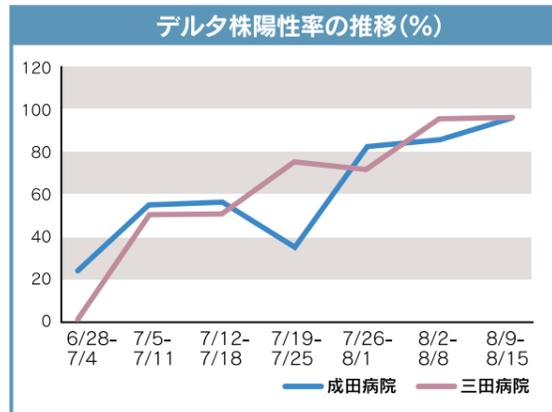
国際医療福祉大学は6月から8月にかけて、国際医療福祉大学成田病院、国際医療福祉大学三田病院の2か所とグループ内の医療法人財団順和会山王病院で、新型コロナウイルスRT-PCR検査で陽性となった検体に対し、デルタ変異株(旧呼称:インド型変異株)のスクリーニング検査を行った。

このうち、成田、三田の両病院では、スクリーニング検査を行った陽性者に占めるデルタ株感染の比率が、8月第2週に、双方とも95%を超える水準に達し、従来型のウイルスとほぼ置き換わったとみられることが確認された(グラフ参照)。両病院で6月28日から8月15日までの間に行ったスクリーニング検査の件数をまとめ、報道発表した。

成田病院では、6月28日の週に、デルタ株の陽性は7件で陽性率は23.3%だったが、8月9日からの1週間ではデルタ株陽性が41件で陽性率は95.3%に達した。同様に三田病院では、6月28日の週にデルタ株が陽性とな

ったデータは0件だったが、8月9日からの1週間ではデルタ株陽性が27件、陽性率は96.4%に上っていた。

デルタ株は従来型より感染力が強く、重症化しやすいとされ、感染拡大に医療現場の緊張が続いた。



2021年度 年間成績優秀賞決定

2021年度年間成績優秀賞受賞者が決まった。この賞の対象者は各学科の2年生以上で、学業成績などが優れた学生の顕彰を目的にしている。受賞者には奨学金が授与される。今年度は、5キャンパス80人が受賞した。昨年

は新型コロナ対策の一環で、成田キャンパス以外では表彰式を見送ったが、今年は大田原キャンパスをはじめそれぞれのキャンパスで式典を行い、成田キャンパスではZoomによる参加も認めて実施した。

大田原キャンパス

保健医療学部

看護学科	2年	菊地 絢香
	3年	山下 明香莉
	4年	日下 結稀
理学療法学科	2年	遠藤 俊弥
	3年	外所 真実
	4年	野部 悠起
作業療法学科	2年	難波 柚季
	2年	沼田 菜摘
	3年	佐藤 瑠音
言語聴覚学科	4年	小澤 巴菜
	2年	深瀬 茉友
	3年	細川 凜
視機能療法学科	4年	安納 英里
	2年	保科 美月
	3年	杉田 拓真
放射線・情報科学科	4年	本田 朱里
	2年	村山 穂奈美
	3年	横山 力斗
4年	渡辺 愛理	

医療福祉学部

医療福祉・マネジメント学科	2年	山口 詩織
	3年	栗原 寿里愛
	4年	穂苅 巴美

薬学部

薬学科	2年	鈴木 志歩
	3年	小林 俊介
	4年	藤平 ほのか
	5年	栗原 卓巳
	6年	安嶋 美紀

成田キャンパス

成田看護学部

看護学科	2年	萩原 帆香
	3年	田口 凜
	4年	石橋 こはる

成田保健医療学部

理学療法学科	2年	安西 香純
	3年	高橋 幹人
	4年	笛木 双葉
作業療法学科	2年	渡部 穂洋
	3年	犬飼 千咲
	4年	福来 里美
言語聴覚学科	2年	増田 さりあ
	3年	岡部 まりん
	4年	大藤 千春
医学検査学科	2年	市原 拓哉
	3年	東海林 航太
	4年	植田 真白
放射線・情報科学科	2年	吉野 乃斗

医学部

医学科	2年	TRUONG CONG HUY
	2年	MOM MONYRATANA
	2年	NGUYEN GIA THINH
	3年	PHAM QUOC HOANG
	3年	倉本 アフジャ 花音
	3年	VUONG PHUC DAI
4年	神野 規人	
4年	中山 生成	
4年	植木 幹也	



●成田年間成績優秀賞表彰式

東京赤坂キャンパス

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部

心理学科	2年	金 恵梨耶
	3年	大石 知佳
	4年	鈴木 結実菜
医療マネジメント学科	2年	吉崎 彩乃
	3年	青木 久実
	4年	椎名 香織



●東京赤坂年間成績優秀賞表彰式

小田原キャンパス

小田原保健医療学部

看護学科	2年	後藤 賀子
	3年	白石 睦
	4年	安室 架音
理学療法学科	2年	大湾 優月
	3年	大和 泰葉
	4年	石塚 梨乃
作業療法学科	2年	中込 ひかる
	3年	三村 結花
	4年	関根 郁実



●小田原年間成績優秀賞表彰式

大川キャンパス

福岡保健医療学部

理学療法学科	2年	森 泉沙紀
	3年	梶原 夏水
	4年	柿本 渚帆
作業療法学科	2年	本堀 翔大
	3年	井 夏海
	4年	中島 南
言語聴覚学科	2年	小園 莉奈
	3年	渡邊 廉
	4年	久保田 遥香
医学検査学科	2年	金森 まゆ
	3年	坂口 稀愛
	4年	川原 健太郎

福岡薬学部

薬学科	2年	松本 奈々彩
-----	----	--------



●大川年間成績優秀賞表彰式

Campus report キャンパスレポート

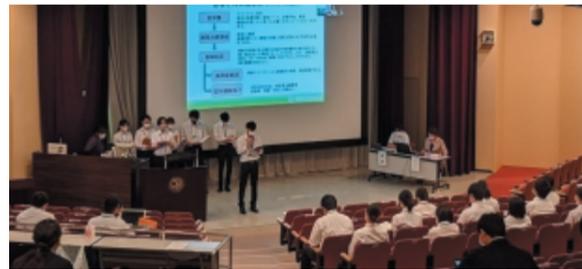
●大田原キャンパス ●成田キャンパス ●小田原キャンパス ●東京赤坂キャンパス ●大川キャンパス

大田原キャンパス

2021年度 大田原キャンパス
関連職種連携実習報告会

8月28日、「関連職種連携実習報告会」が大田原キャンパスで開催された。学科横断のチームを編成しチーム医療を学ぶ「関連職種連携教育」の最終ステップである。今年度も、コロナ禍での開催となったが、感染対策を講じながら、昨年よりも2チーム増やし、6施設・10チームの実習を実施することができた。昨年度に引き続き、グループ内施設では医学部学生とチームを組んだ。医学部生が参加することで、専門職では補いきれなかった、チーム医療・チームケアによる学びを得ることができた。

実習後の報告会では、各施設の実習指導者に来校いただき、また、在学生・成田キャンパス教員にはオンラインシステム（Zoom）で接続をし、実習の成果を報告した。医療現場の実情に沿った質問や感想を受け、さらに理解を深めることができた。（教務課 江連綾菜）



成田キャンパス

「TEDxIUHWNarita 2021」をオンライン開催
10月3日「Fluidity（流動性）」テーマに

英語で幅広い分野のプレゼンテーションを、成田キャンパスから国境を越えて発信する「TEDxIUHWNarita 2021」が10月3日、オンラインで行われた。今回のテーマは「Fluidity（流動性）」。コロナ禍の中で、昨年に続きオンラインでの開催となったが、留学生1名を含む本学医学部と成田看護学部の学生5名、教員1名の計6人が、英語でトークを披露した。

TEDは「広める価値あるアイデア（ideas worth spreading）」を理念にした国際的会議組織（本部・ニューヨーク）で、この理念に賛同した世界各地のコミュニケーターが、本部からライセンスを受けてプレゼンテーションを発信している。TEDxIUHWNarita 2021はその一つ。

動画の収録は、公開に先立つ9月5日、成田キャンパスを主会場に行われた。参加者はそれぞれ日常や日々の学業での体験をテーマに沿って発展させ、15分前後のプレゼンテーションを行った。学内の運営メンバーが見守るなかで、話術や自然な身振りを交えての熱弁が繰り広げられた。



●学生によるプレゼンテーション

今回の運営にかかわった医学部3年、三ツ目絵美さんは、「オンラインということでたくさんの方に見ていただけるというメリットがあった。一方で、TEDxならではの臨場感やはり対面のみでしか味わえないと思う。来年は対面で開催できたらと思う」と、今後の意気込みを語った。

（総合教育センター 山本秀也）



●オンラインで開催されたTEDxIUHWNarita 2021

小田原キャンパス

関連病院説明会開催

いざ就職活動へ 小田原キャンパス 8月2日・18日

小田原キャンパスでは毎年、関連病院の職員や、関連病院に就職をした先輩看護師を招き、関連病院説明会を実施している。しかし、今年度については新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、対面とオンライン（Zoom）を複合したハイブリッド形式で実施をした。

まず、8月2日に看護学科3年生を対象に、関連病院説明会を実施した。本学から就職をした先輩看護師より、自身の体験などを聞くことで、学生は将来のイメージを持つことができた。

また、理学療法学科・作業療法学科合同で、4年生を対象に、例年より開催時期を早め、8月18日に関連病院説明会を実施した。各関連病院の説明を聞くことで、関連病院へ興味



●8月2日に行われた看護学科3年生を対象にした関連病院説明会

を抱き、多くの学生が、実際に就職活動に動き出した。

看護学科については、12月にも対面での就職対策講座と関連病院説明会を実施するので、さらに就職に対して理解を深め、今後に生かしてもらいたい。（学務課学生係 大木颯人）



●8月18日に行われた理学療法学科・作業療法学科4年生を対象にした合同関連病院説明会

東京赤坂キャンパス

市民公開講座開催

「新型コロナワクチン」をテーマに

10月9日（土）、茜陵祭記念講演として市民公開講座「新型コロナウイルスワクチン」を開催、医学部感染症学の矢野晴美教授（医学教育統括センター副センター長）が登壇した。

講演では、大会組織委員会理事を務めた「東京五輪・パラリンピック」での感染対策について、自身の経験をもとに臨場感たっぷりに伝え、参加者は興味深く聞き入っていた。また、最新のデータをもとに、新型コロナウイルスの世界の感染状況や現在の治療薬と重症化のリスク、ワクチン接種の効果や接種後の注意事項、および3回目の接種についても言及した。

講演後の質疑応答では参加者から続々と質問が寄せられ、大変有意義な時間となった。

今後は、高齢者の心身の健康やポスト・コロナ時代の課題などを取り上げる予定で、地域の方々の生活に役立つような講演会を開催していきたい。（事務部 井上大輔）



●東京赤坂キャンパスで開催された市民公開講座

大川キャンパス

薬学フォーラム開催

中・高生に福岡薬学部の魅力を発信

大川キャンパスでは10月10日、薬剤師をめざす中・高生とその保護者のための「薬学フォーラム」を開催した。外須美夫副学長による大学紹介の後は、武田弘志福岡薬学部長による基調講演「最先端をいく、福岡薬学部の薬学教育と研究」。次世代の薬剤師には、チーム医療や地域医療に貢献できる高い専門性と「創薬」「育薬」研究に貢献できるリサーチマインドが必要であり、そのために1年次から基礎薬学と臨床薬学を融合した新しい薬学カリキュラムを展開していると説明。

教員の研究の数々にも触れ、「地域の健康の担い手、最先端の研究者として、ともに薬学の未来を開いていきましょう」と力強く語りかけると、真剣に聞いていた生徒たちから拍手が起こった。

続いて、高木病院の薬剤部長でもある西村信弘教授が「感染症との戦いに挑む薬剤師、欠かせない抗菌薬とワクチン」をテーマに講演。感染制御における薬剤師の重要な役割と使命について話し、本学部では幅広い知識と専門性を兼ね備えたプロフェッショナルな薬剤師の育成をめざすと締めくくった。（入試学生募集課 帆足リエ）



●中・高生と保護者を対象に行われた薬学フォーラム

訃報のお知らせ

笹沼澄子先生

本学の初代言語聴覚学科長



日本における言語聴覚障害領域の研究と臨床の先駆者であり、世界の失語症研究の第一人者である、本学の初代言語聴覚学科長の笹沼澄子先生が、10月25日に逝去された。享年92歳。葬儀は家族葬で執り行われた。

笹沼先生は1953年津田塾大学卒業後、フルブライト留学生として、アイオワ大学の言語病理学で日本人初となる博士号を取得。東京都老人総合研究所リハビリテーション医学部部長、横浜国立大学教育学部教授

（言語障害学）を経て、国際医療福祉大学の初代言語聴覚学科長に就任された。

1974年には日本聴能言語士協会の初代会長に就任、1997年の言語聴覚士法の成立、1999年の初の言語聴覚士国家試験実施にご尽力されるなど、まさに日本の言語聴覚界におけるパイオニアだった。2004年には、失語症の研究に携わる学問領域の世界トップクラスの専門家による学術団体Academy of Aphasiaの名誉会員の称号も授与された。

笹沼澄子先生の生前の功績をしのび、心からご冥福をお祈りいたします。

本学主催の「笹沼澄子先生を偲ぶ会」を、12月25日（土）に、開催する予定。詳しくは後日、本学ホームページなどでお知らせします。

**和田耕治教授が
ヘルシー・ソサエティ賞受賞**



本学医学部公衆衛生学の和田耕治教授が、今年度の第17回ヘルシー・ソサエティ賞(医師部門)を受賞した。

ヘルシー・ソサエティ賞は、健全な社会と地域社会、そして国民のクオリティオブライフの向上に貢献した方々を称える目的で、公益社団法人日本看護協会とジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループによって2004年に創設された。今年度は、「コロナ禍での挑戦、心をひとつに」というコンセプトのもと、異なる立場の人と協力・連携をしながら、新型コロナウイルス感染症対策で献身的な貢献をされている方や革新的な取り組みを行っている方を対象に選考が行われた。

和田教授は、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号における臨時検疫官としての活動や、厚生労働省新型コロナウ

イルス感染症専門家会議委員、アドバイザーボードメンバーとしての貢献が評価された。

受賞にあたり、和田教授は「こうしたパンデミックに備えるという取り組みを2009年の新型インフルエンザの前から取り組んできており、今回こうした状況において率先してかわりをもてたことは医師としても光栄だ」とコメントしている。



Kouji Wada

医学部公衆衛生学 教授
和田 耕治

産業医科大学卒、医学博士。
北里大学准教授、
国立国際医療研究センター
国際医療協力局を経て現職。
厚生労働省新型コロナウイルス対策本部参与。

**矢野晴美教授 米国内科学会の
女性医師賞を受賞**



本学医学部・医学教育統括センター副センター長・感染症学、成田病院感染症科の矢野晴美教授が、米国内科学会の米国内本部より、「Women in Medicine Month 2021(女性医師賞)」を受賞した。

米国内科学会では、毎年9月を「女性医師月間」とし、内科領域における性差別の是正や女性医師のキャリア発展に寄与したと認められる医師に、この賞を贈っている。矢野教授は、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会理事としての活動実績などが評価された。

受賞に際し、矢野教授は「2021年9月の初旬に、医学部に

米国内本部より、賞状が届き、開けてみたら賞状が入っており大変、驚いた。東京五輪2020で関係者の皆様と懸命に取り組んだことを見ていただき嬉しかった。今後も精進していきたい」とコメントしている。

Harumi Yano

医学部感染症学 教授
矢野 晴美

医学教育統括センター副センター長
国際医療福祉大学成田病院
感染症科

岡山大学卒、医学博士。
米国感染症科専門医。米国マウントサイナイ・ベス・イスラエル病院内科、テキサス大学ヒューストン校感染症科、筑波大学医学医療系教授などを経て現職。



**堤治山王病院名誉病院長、ライフタイム・
アチーブメント・アワードを受賞**



アジア・パシフィック産科婦人科内視鏡学会から

山王病院の堤治山王病院名誉病院長が、アジア・パシフィック産科婦人科内視鏡学会よりLifetime Achievement Awardを授賞され、9月21日、横浜市で行われた同学会の第21回総会で表彰式が行われた。この賞は、アジア・パシフィック産科婦人科内視鏡学会の発展に特別に寄与した者に与えられる。

堤山王病院名誉病院長は長年、内視鏡手術に携わり、術式の開発や学会活動による術式の普及に努めて来たほか、国内外で数多くの内視鏡手術のデモンストレーションに赴き、実地手術教育を行ってきた。その実績が認められ、今回の受賞となった。

また、アジア・パシフィック産科婦人科内視鏡学会の大会長、学会理事長を歴任。日本産科婦人科内視鏡学会との橋渡しをしつつ、両学会の発展に寄与したことも大きな功績として評価された。

堤山王病院名誉病院長は、今回の受賞に際し「学会に対する日本の貢献が評価され、受賞できたもの。大変光栄だ。受賞は一区切りだが、現在も新しい機器や技術の開発を進めている。日々の内視鏡手術の臨床だけでなく、より低侵襲な手術により、多くの人々の幸福、福祉に尽力していきたい」とコメントしている。



Osamu Tsutsumi

国際医療福祉大学大学院 教授
堤 治

山王病院 名誉病院長

東京大学卒、医学博士。
前山王病院病院長、元東京大学医学部産科婦人科教室教授、元東宮職御用掛、米国国立衛生研究所(NIH)留学、前日本受着床学会理事長、元日本産科婦人科内視鏡学会理事長、元アジア・パシフィック産科婦人科内視鏡学会理事長、産婦人科PRP研究会代表世話人、日本生殖医学会代議員、中日友好病院(北京)名誉教授

本学に読売新聞より2000万円寄付

**読売新聞グループ本社の山口社長が謝辞
「感染者が救われ、多くの人々がワクチン接種を受けられた」**

全国の読売新聞販売店(YC)と読売新聞グループ本社は11月1日、新型コロナウイルスの感染防止対策に尽力しているとして、国際医療福祉大学に、2000万円を寄付、読売新聞東京本社(東京都千代田区)で贈呈式が行われた。同社の社会貢献キャンペーンの一環。

読売新聞の販売店は、新規購読者の紹介を受けた際、1件につき一定額を寄付するキャンペーンを5月から7月にかけて展開。全国のYCを代表して、読売東京七日会、大阪連合読売会、読売西部七日会が本学への寄付を決めた。

読売新聞ビルで行われた贈呈式で読売新聞グループ本社の山口寿一社長は「国際医療福祉大学はワクチン接種やPCR検査など、さまざまなコロナ対策に先陣を切って取り組んでおり、社会貢献が大きく、深く敬意を表する。感染者が救われ、多くの人々がワクチン接種を受けられた。(寄付を)今後の活動に役立てていただければ」と述べ、読売東京七日会の清水和之会長とともに、本学の高木邦格理事長に目録を手渡した。

ワクチン職域接種の感謝状の贈呈も

また本学の成田キャンパスで9~10月に、千葉県内の読売新聞販売店関係者に対して新型コロナワクチンの職域接種を行ったことに対する感謝状が、大友邦学長に渡された。

高木理事長は「読売新聞販売店が少しずつ貯められたご厚志をいただけるのは、感激と感謝でいっぱいです。コロナ対策で頑張っているスタッフの福利厚生や感染症教育などに、利用させていただきたい」と、謝意を表した。



●読売新聞グループ本社の山口社長(右)と読売東京七日会の清水会長(左)から目録を受け取る国際医療福祉大の高木理事長

**大川キャンパス理学療法学科4年の早川さん
全日本フィギュアスケート選手権出場!**

大川キャンパス理学療法学科4年の早川晃太郎さん(氷上競技サークル)が、予選会を勝ち抜き、全日本フィギュアスケート選手権大会出場を決めた。早川さんは、4歳でフィギュアスケートを始め、小2でクラブチームへ。中学、高校と2度の大ケガを経験し、理学療法士の重要性を知って、本学に進学。福岡市内での早朝・夜の練習と学業を4年間両立させ、見事、全日本への出場を勝ち取った。



将来の目標は「患者さんも自分も笑顔でいられる、確かな技術と知識を身につけた理学療法士」。本グループへの就職も決まり、今後は働きながら大学院への進学をめざす。卒論のテーマは「二次元動作解析によるフィギュアスケート選手のジャンプと腰痛との関係」。

「フィギュアスポーツに関する理学療法分野での研究はまだないので、卒業後は臨床と研究の両方を頑張りたい」。全日本では、4年間応援してくれた大学の友人と両親に感謝の気持ちを込めて滑るといふ。「仲間への存在は大きい。みんなが高めあえる環境にある大川キャンパスに感謝です！」

**東京オリンピックに
理学療法学科講師がボランティア参加**

今夏開催された東京オリンピック・パラリンピックに、大田原キャンパス理学療法学科の井川達也講師が理学療法士ボランティアスタッフとして参加した。IOCから派遣を要請された日本理学療法士協会からの公募に、井川講師が応募して厳正な審査の結果選ばれたもので、7月中旬より選手村で活動を開始した。



選手村では、各国出場選手のコンディショニング調整やけがの手当てなどに従事、選手が本番で力が発揮できるようにサポートした。大会規程で1日の勤務時間が9時間までと制限される中、可能な限り要望に応じてリハビリを行った井川講師の技術と取り組み姿勢は評判となり、同じ選手から何度も依頼されるようになったとのこと。

井川講師は「理学療法士のスキルをこのような機会で生かすことができ、貴重な体験となった」と語っている。

●国際医療福祉大学成田病院

市民公開講座開催／千葉県警から感謝状

定期的に市民公開講座を開催している当院は、10月2日に小児科、16日に脳神経外科の市民公開講座を開催した。小児科部長の藤井克則主任教授をはじめ小児科医4人が「こどもに関する悩み」をテーマに講演、地域の方々の質疑応答も活発に交わされた。脳神経外科は7月に開催した公開講座が定員を大幅に上回り、ご要望を受け10月に第2回として開催した。松野彰統括主任教授をはじめ6人の医師が「知ってほしい脳のお話」をテーマにそれぞれの専門分野から講演、200人が熱心に聴講されていた。

10月12日には、千葉県警察本部からコロナワクチン接種に当院が医師8人を派遣したことによる感謝状が贈呈された。宮崎勝病院長をはじめ、救急科部長の志賀隆主任教授などが当院の国際ホールで執り行った贈呈式に出席した。当院は昨年3月の開院から1年7か月で、1日の外来数が1,000人を超えた。今後も地域に必要なとされる病院をめざす。
(広報室)



●千葉県警からの感謝状贈呈式

●国際医療福祉大学病院

医学部生前期実習終了、後期実習開始

医学部4年生の臨床実習は2年目を迎えたが、本年度、当院は、前期(5～10月)70人、後期(11～3月)56人の実習生を受け入れている。カリキュラムの1つである「診療参加型実習」では、実際に病院の診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しつつ医師としての職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的内容を学ぶ。こうして4週間ずつ5つの診療科を回り、合計20週間、医療現場での経験を積んでいく。

このたび、無事に前期実習が終了し、11月1日に実施したオリエンテーションを手始めに、後期がスタートした。

上述の「診療参加型実習」以外にも、「国家試験対策セミナー」、「オンラインで行う、英語カンファレンス」、「那須塩原市長と共に学ぶ地域医療連携実習」など、多くのカリ

●国際医療福祉大学熱海病院

「令和3年度 救急医療功労者知事表彰」を受賞

9月9日、熱海病院は静岡県「令和3年度 救急医療功労者知事表彰」を受賞した。これは、10年以上の救急医療における実績および体制整備や普及啓発に貢献した団体に贈られるものである。当院は二次救急輪番病院として、熱海市の救急医療に貢献してきたことが評価された。伝達式は10月7日に当院にて行われ、池田佳史病院長には静岡県の後藤医療局長から賞状が贈呈された。伝達式後に行われた懇談では、土石流災害、小児救急、圏域内での連携等について意見交換が行われた。最後に、池田病院長は「今回の受賞は当院だけでなく、熱海市の医療機関や熱海市と近隣の消防本部の日ごろの活動が評価されたものと思っている。今後も地域における救急医療の中心として、さらなる体制整備を行うことはもちろん、地域の皆様に安心・安全な医療を提供していけるよう、職員一同、尽力していきたい」とコメントした。
(総務課 木村玲於奈)



●表彰状を受け取る池田病院長(右)

●国際医療福祉大学塩谷病院

ICLS研修の実施

10月24日、当院の大会議室にて、ICLS(Immediate Cardiac Life Support)研修を行った。この研修は医療従事者のための蘇生トレーニングコースで、緊急性の高い病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としている。講師は一瀬雅典副院長を中心に、本コースを受講した職員と外部から招聘した千葉メディカルセンターの高石聡副院長、千葉大学大学院医学研究科先端応用外科学の蔵田能裕先生、塩谷広域行政組合消防署の方にご協力をいただいた。研修に参加した職員はグループに分かれ、実際に即したシミュレーション実習で実践的に学んだ。参加者からは、「患者様を救えるように努めることが最重要であり、また日常生活の場でも医療従事者として、率先した行動力が必要であることを改めて実感した」と話していた。
(総務・人事課 小室秀明)



●除細動器の使用方法を学ぶ参加者

●国際医療福祉大学市川病院

「けんこう教室特別篇」を開催

10月2日と同月30日、当院大会議室で「けんこう教室特別篇」を開催した。緊急事態宣言の解除直後ということで、密を避けるように設定した定員50人に対して申し込みは満席となり、2日間で91人が来場した。

当院病院長の大谷俊郎医師(医学部教授)が講師を務め、「今日からできる膝の痛み対策」と題して講演を行った。講演では膝の役割や動き、膝の痛みの原因や診断方法、症例、治療方法をわかりやすく説明、質疑応答の時間では来場者からの質問に丁寧に答えていた。30日の講演にはヤクルトスワローズの雄平選手も来院され、会場の雰囲気盛り上げていた。

引き続き、吉川大貴理学療法士が膝によい体操を紹介。来場者の方々は熱心に取り組んでいた。次回は12月に、通常のけんこう教室を定員80人で予定している。

(総務課 細田幸生)



●講演する大谷俊郎病院長

●国際医療福祉大学三田病院

大阪大学 澤芳樹特任教授を招いて 新生！心臓外科がオンライン特別講演会を開催

心臓外科手術の第一人者、高梨秀一郎教授が率いる心臓外科の新体制(2021年4月～)を地域にご案内する目的で、10月26日、地域連携協議会をオンラインで開催した。

当日は、かねてより当院当科と深い連携関係にある、大阪大学大学院医学系研究科の澤芳樹特任教授が司会として大阪から駆けつけた。

高梨教授が、新体制のご案内と症例実績、本邦が誇る水準の技術をプレゼンテーションした後、特別講演 ●大阪大学 澤芳樹特任教授(左)、高梨秀一郎教授(右)『重症心不全治療の現状と未来～心臓移植 VADからiPS細胞まで～』と題して、澤教授が最新の再生医療の動向をテーマに演者として登壇した。

地域のクリニックだけでなく、虎の門病院、聖路加病院、東京慈恵会医科大学附属病院など、都内有数の病院からの参加も多く、特別講演の後には、再生医療に関する質疑応答なども活発に行われるなか閉会となった。(事務局長 高橋宏寿)



●山王病院

夕べのコンサートを再開

当院では従来、プロの演奏者によるロビーコンサートを行ってきたが、新型コロナウイルスの影響により2020年1月を最後に休止していた。その間も再開を待ち望む多くの声をいただき、ようやく今年6月、1年以上ぶりに再開した。感染対策として座席の間隔を空けるとともに、万が一の場合も連絡をとれるよう、事前申込制で全席指定とした。入場時の検温はもちろん、出演者には当院にて本番前にPCR検査を受けていただき、陰性を確認した状態で演奏していただいた。8・9月に再び緊急事態宣言が発令されたため中止となったが、10月から再開。11月12日はたくさんのお客様を迎え、会場は美しいチェロとピアノの音色にまつまされた。これからも感染対策を徹底し、病院だからこそ安心して聴きにきていただけるコンサートをめざしていきたい。
(総務課 山本悦子)



●和やかな雰囲気演奏を聴く参加者



●オリエンテーションの様子

キュラムが用意され、実習生たちは来年の3月末まで、勉学にいそしむことになる。

(総務課 中澤彩乃)

各キャンパスの学生たちが思い思いに活躍するクラブ・サークルをご紹介します。

赤坂同好会 (東京赤坂キャンパス)

赤坂氷川祭に参加

東京赤坂キャンパスの正面入口に展示されている「赤坂氷川山車」。「所縁のない場所に飾られることがないはずの『祭りの主役』が、なぜこのキャンパスにあるのだろう…」と、この「山車」と「祭り」へ興味を持って「赤坂同好会」への参加を決めた部員は多い。



●コロナ禍で禁止されていた対面でのサークル活動許可があり、初めての対面活動(今年11月7日)。新1,2年生を対象に赤坂氷川神社について学び、赤坂同好会の今後を願って正式参拝を行った。

手古舞や金棒曳、山車の巡行の大役を

毎年9月に行われる「赤坂氷川祭」では、私たち学生が伝統的な手古舞や金棒曳(巡行の先駆や警固の役割)、山車の巡行といった大役を担う。本来、住民のものである祭りに、赤坂で学ぶ私たちが中心的な役割を担わせていただける。責任もやりがいもある分、やりきった達成感もひとしおだ。

祭りの準備は約2か月前から始まる。山車の清掃、巡行の手習い、さらに勉強会では赤坂氷川祭や山車、そして赤坂の歴史についても学ぶ。祭礼後には地域の方々と「祭礼鉢洗い」(反省会)も行うなど、多くの交流がある。祭礼以外にも赤坂の街を学ぶための定期的な



●2019年12月1日の山車の清掃。境内の清掃、焼き芋を行った。皆で境内や山車を掃除し集めた落ち葉で焼いた芋は格別。地元の方々も集まり、いい交流の機会となった。

清掃活動や、境内清掃後の焼き芋大会、そして正月を前に餅つきなど、古くから日本人が大切にしてきた風習や神社を中心とした行事にも参加し、心磨きをする。このように、赤坂を通じて日本の歴史や伝統に触れ、地域の方々と交流する機会がたくさんあるのがこの会の特徴だ。



●赤坂氷川祭後(19年9月15日)に祭礼の衣装に身を包み神社の方々と。赤坂の街を山車を引きながら巡行する、同好会のメインの活動だ。

歴史を学び地域の人との交流も

昨今はコロナ禍で思うような活動ができず、残念ながら今年のお祭りも中止だった。しかし「赤坂同好会」の火は消えていない。赤坂の方々のご縁を大切にしながら、他大学のサークルにはない貴重な経験が積める場として、伝統や文化を肌で感じる活動を続けていきたい。



●天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典(19年11月9日)に参加したのは、一生に一度あるかないかの貴重な体験だった。

コロナ禍にも負けないぞ

特に1,2年生の皆さん!ここは「古き良きもの」、「人とのご縁」を身をもって感じることができる稀有な場です。コロナで活動が停滞していたからこそ、今から参加しても遅くはありません。来年秋の赤坂氷川祭をめざして、ぜひ「赤坂同好会」への参加をお待ちしております。

心理学科3年 村山裕佳

「献体の会」からのお願い

会員を募集しています

国際医療福祉大学・献体の会では、会員の募集を行っています。

本学の「献体の会」は2017年4月1日、医学部設置と同時に設立されました。現在、登録会員総数は、450人を超え、そのうち献体を成願された方は、既に98人におよびます(11月22日現在)。「献体」とは、死後、自分の遺体を医学生への解剖学実習のために提供することを生前に登録し、亡くなった後に遺族が医学部に遺体を提供することを言います。日本の「献体」は、「無条件・無報酬」で行われることが原則となっており、「人生最期のボランティア」とも呼ばれています。「献体」は、自分の遺体を解剖学実習に使ってもらうことを通して学生が医学を学び、将来立派な医師・医療従事者として育ち活躍することに資するものです。医学生は、解剖学実習を行いながらそのことを実感し、自分が社会から大きな期待をされていることを実感し、勉学に励むこととなります。日本の「献体」活動が、医療従事者と患者との信頼関係の原点であり、医学教育の1つと言われる理由がここにあります。

本学の「人体解剖学実習」は、医学生が実際に解剖し学ぶだけでなく、成田キャンパス、大田原キャンパスの理学療

法学科、作業療法学科等をはじめ、東京赤坂キャンパス・特定行為看護師養成分野、学外の医療スタッフ養成課程の学部生、大学院生の解剖学実習にも役立っています。

同窓会員等の皆様におかれましては、職場で、または身近で「献体」について関心のある患者様、お知り合いの方がいらっしゃいましたら、下記の連絡先をお知らせください。職場に「献体の会」のチラシを置いてくださる方、「献体の会」のポスターを貼ってくださる方は、ぜひともご連絡ください。現在のところ、会員募集は主に、千葉県、栃木県、茨城県、東京都、埼玉県に居住の方を対象にしています。「献体」は、こちらから強くお誘いすることではありません。ご相談をお待ちしております。

(国際医療福祉大学医学部教授(解剖学)・小阪 淳)

お問い合わせ先

国際医療福祉大学・献体の会・事務局

〒286-8686 千葉県成田市公津の杜4-3
(成田キャンパス医学部WB棟1階)

☎ 0476-28-1031 (平日9:00~17:00)

kentai@iuhw.ac.jp

https://narita.iuhw.ac.jp/gakubu/igakubu/kentai.html

2~3 **特集1 第11回 国際医療福祉大学学会学術大会**

4~5 **特集2 オリンピック・パラリンピック ボランティア体験記**

6 **コロナ対策 in IUHW**

約9万人にワクチン接種/PCR検査能力最大1日5000人/学生2回目接種率92.6%/コロナ病床、ピーク時は252床/新型コロナウイルススクリーニング検査で8月はデルタ株95%超

7 **2021年度年間成績優秀賞決定**

8~9 **キャンパスレポート** 大田原キャンパスで関連職種連携実習報告会/成田キャンパスで「TEDxIUHW Narita 2021」開催/小田原キャンパスで関連病院説明会開催/東京赤坂キャンパスで市民公開講座開催/大

9 **笹沼澄子先生ご逝去** 川キャンパスで薬学フォーラム開催

10~11 **トピックス** 和田耕治医学部教授、ヘルシー・ソサエティ賞受賞/矢野晴美教授、女性医師賞受賞/堤治山王病院名誉病院長、ライフタイム・アチーブメント・アワード受賞
読売新聞から寄付金/大川キャンパスの早川さん全日本フィギュアスケート選手権に出場/大田原キャンパス理学療法学科井川講師がオリンピック・パラリンピックのボランティア参加

12~13 **施設インフォメーション** 成田病院/熱海病院/国際医療福祉大学病院/塩谷病院/市川病院/三田病院/山王病院

14 **キャンパスプラス1 クラブ・サークル紹介** 赤坂同好会(東京赤坂キャンパス)

15 **「献体の会」からのお願い**

16 **市民公開講座のご案内/大学の各キャンパスで「毎日キャンパス見学会」を開催中**

市民公開講座のご案内

国際医療福祉大学の附属病院で開催予定の市民公開講座をご紹介します。

開催日	施設	講演テーマ、講師	
12月11日(土) 14:00~15:30	 国際医療福祉大学塩谷病院 ※会場は国際医療福祉大学 塩谷看護専門学校 講堂	「知って安心! 身近な泌尿器の病気 ~おしっこの悩みから泌尿器のがんまで~」 泌尿器科の疾患は多岐にわたり、男性の場合は前立腺肥大症を契機とした排尿障害、前立腺がん、膀胱がんなど、女性では骨盤臓器脱や過活動膀胱に関連した尿失禁などの患者様が増加しています。それらに対する内科的、外科的治療についてわかりやすくお話しします。 講師：山口 剛 泌尿器科部長、国際医療福祉大学 病院教授	
12月18日(土) 10:30~11:30	 国際医療福祉大学市川病院 (研究棟2階 大会議室)	「今日からできる、ひざの痛み対策」 講師：大谷 俊郎 病院長、国際医療福祉大学 医学部教授	
12月18日(土) 14:30~16:00	 国際医療福祉大学病院 (B棟5階 講堂)	「“こどもの救急”のおはなし ~こんな症状の時はどうすればよい?~」 講師：佐藤 智幸 小児科部長、国際医療福祉大学 病院准教授 第2部のワンポイントアドバイスでは、小児科 井上 俊医師が、子どものインフルエンザと新型コロナウイルス感染症について、最新情報と注意点を解説します。	
1月15日(土) 10:30~11:30	 国際医療福祉大学市川病院 (研究棟2階 大会議室)	「ハッピーライフ with 糖尿病」 講師：野見山 崇 副院長、糖尿病・代謝・内分泌内科部長 国際医療福祉大学 医学部教授	

市民公開講座は、新型コロナウイルス対策を徹底して開催していますが、今後の状況次第で中止、延期する場合がございます。各施設のホームページにて最新の情報をご確認ください。

国際医療福祉大学の各キャンパスで「毎日キャンパス見学会」を開催中

医師・看護師・薬剤師や、理学療法士・作業療法士など、多彩な医療福祉専門職を養成している国際医療福祉大学では、医療福祉に興味のある高校生と、その保護者を対象にした「毎日キャンパス見学会」を、すべてのキャンパスで随時実施しています。オープンキャンパスやイベントに参加できない方のために平日開催しており、事前予約制です。

各施設の内部を見学できるほか、入試相談や学修内容など個別の相談・質問に、教職員が対応します。詳細および申込方法は、ご希望のキャンパスによって異なります。本学ホームページ内のキャンパス別サイトをご確認ください。

また大学行事や入学試験等の関係で、ご希望の日程に沿えない場合があります。コロナ感染拡大の状況に



より開催を中止する場合がありますのでご了承ください。

<https://admissions.iuhw.ac.jp/tour/index.html>



広報誌 IUHW 127 2021年12月9日 発行:学校法人 国際医療福祉大学 ホームページ <https://www.iuhw.ac.jp/>

【大田原キャンパス】栃木県大田原市北金丸2600-1 Tel.0287-24-3000
 【成田キャンパス】千葉県成田市公津の杜4-3 Tel.0476-20-7701
 【東京赤坂キャンパス】東京都港区赤坂4-1-26 Tel.03-5574-3900

【小田原キャンパス】神奈川県小田原市城山1-2-25(本校舎) Tel.0465-21-6500
 【大川キャンパス】福岡県大川市櫻津137-1 Tel.0944-89-2000
 編集：広報部 デザイン：野佐デザイン